

McLaren 600LT： マクラーレン「ロングテール」 ストーリーの新たなチャプター

28 Jun 2018

- パワーの増大、軽量化、エアロダイナミクスの最適化、ドライバーとマシンとの究極の一体感、サーキット指向のダイナミクス、限定生産 – McLaren F1 GTR「ロングテール」レースカー、McLaren 675LT Coupé および Spider に宿る、歴史ある「ロングテール (LT)」の精神と特性を全て継承
- 「ロングテール」の名称が与えられたわずか4番目のマクラーレン
- およそ4分の1の部品を変更する事で、McLaren 570S Coupé に比べて車両重量を96kg軽量化 (DIN 車両重量)、乾燥重量はこれまでで最も軽い、わずか1,247kg
- 8リッターV8 ツインターボ・エンジンより生み出される最高出力は600PS、最大トルクは620Nm。乾燥重量でのパワーウェイトレシオは最小の2.08Kg/PS
- サーキット指向のダイナミクスとドライバーとマシンとの一体感への向上にこだわって開発されたPirelli P Zero™ Trofeo R タイヤ
- 新しいフロント・スプリッター、サイドシル、拡張されたディフューザーおよび固定式のリアウィングなどで構成された、他のスポーツシリーズより74mm長い新たなカーボンファイバー製ボディの採用、これによって軽量化とダウンフォースを増大
- トップエグジットタイプの排気口を備えたユニークなエキゾースト・システムにより、車両重量を大幅に削減すると共に際立ったスタイリッシュなエクステリアを実現
- サーキット指向のキャビンでは、広範囲に渡って軽量のアルカンターラ®を使用するとともに、McLaren P1™で初めて採用されたカーボンファイバー製レーシング・シートを採用
- 全てが英国サリー州ウォーキングのマクラーレン・プロダクション・センターにおいて手作業で製作され、生産台数は厳密に限定

McLaren 600LT は、マクラーレンの「ロングテール (LT) 」ストーリーの新たな章の始まりであると

共に、マクラーレンのこれまでのスポーツシリーズ・モデルの中で最速かつ最もパワフルで、公道走行も

可能なサーキット指向のマシンとして、スポーツカーの新たな基準を定義します。

「600LT は過去 20 年を超える歴史の中でわずか 4 番目に当たる『ロングテール』の名が冠された

マクラーレンです。源流となった McLaren F1 GTR『ロングテール』は、近代モータースポーツ史上最もピュアなレースカーの 1 つでした。その輝かしき名称を復活させたモデル 675LT は、全ての

マクラーレンが体現する研ぎ澄まされたドライビング・プレジャーを最も純粋な形で実現していました。そしてこの度、つまり我々にとって特別な LT ファミリーを生産台数こそ限定されるもののさらに拡張

させることで、マクラーレン『ロングテール』の代名詞である、エアロダイナミクスの最適化やパワーの増大、軽量化、サーキット指向のダイナミクス、ドライバーとマシンとの一体感の向上へのこだわりを

改めて世に示したいと思っています」とマクラーレン・オートモーティブ最高経営責任者マイク・

フルーウィットは述べています。

高い評価を得ている McLaren 675LT とそれ以前の「ロングテール」のレースカーから

インスピレーションを受けた 600LT は、公道でもレース・サーキットでも卓越した性能を発揮するように開発されています。LT ファミリーのこのニューモデルは、74mm 延長されたシルエット、拡張されたフロント・スプリッター、延長されたリア・ディフューザー、そして固定式のリアウィング等、真の意味でのマクラーレン「ロングテール」の物理的な特性を全て兼ね備えています。標準モデルの 600LT は McLaren 570S Coupé と比べて全体で部品の 23%以上（部品数）が変更されています。

究極の軽量化対策が McLaren 600LT プログラムの中心的な課題であったことから、開発当初から 570S Coupé に比べて DIN 重量を 96kg 削減するという目標が掲げられ、そして達成されました。

マクラーレンの名を高めた、軽量のカーボンファイバー製モノコック・シャシーの採用により、600LT

では車両重量が軽減されると共に、エアロダイナミクス性能が最適化されています。また、トップエグジットのユニークなエキゾーストにより、一目で特別なマシンだとわかる独特な美しさを持ちあわせた **McLaren 600LT**。車両重量が大幅に削減されているだけでなく、ドライバーに驚異的なサウンド体験を提供します。

極限まで追及されたサーキット指向のインテリアには、**McLaren P1™**で初めて採用されたカーボンファイバー製レーシング・シートと軽量のアルカンターラ®によるトリムが広範囲に渡って使用されています。**McLaren Senna** のために開発された、超軽量のカーボンファイバー製シートも標準のシートに代えて装備することができるだけでなく、さらなる軽量化をお望みのお客様には、カーボンファイバー製のルーフとカントレイル（梁）や通気口付きのカーボンファイバー製フロントフェンダーといった、様々な装備をマクラーレン・スペシャル・オペレーションズ（MSO）が用意しています。軽量化のためのオプションを全て装着した場合、新しい **600LT** の乾燥重量は **1,247kg** まで軽量化されます。

LT の名にふさわしい究極のパフォーマンスを発揮するために、**McLaren 600LT** には、改良された冷却システムと、**McLaren Senna** のものよりさらに短く、より背圧の軽減されたエキゾースト・システムによって強化された **3.8 リッターV8 ツインターボ・エンジン**が搭載されています。最高出力は **600PS**、最大トルクは **620Nm** で、最軽量の乾燥重量での **600LT** のパワーウェイトレシオは **481PS/トン** という驚異的な数値です。

マクラーレンの「ロングテール」の本質は、より徹底された物理的なシルエットや、更なる軽量化、パワーの増大といった目に見えない部分にも宿っています。**McLaren 600LT** の究極の軽量化は、ドライバーとマシンとの一体感およびドライバーの得る感動を、想像できる最大限のレベルにまで高めることにあります。

上記のような目的を達成するために、**McLaren 600LT** には、第2世代のマクラーレン・スーパーシリーズで採用された、鍛造アルミニウムのダブルウィッシュボーン式サスペンションと軽量のブレーキ・

システム、サーキット専用開発された **Pirelli Zero™ Trofeo R** タイヤ、よりクイックなステアリングと

ダイレクトなスロットル、ブレーキペダル、より強化されたエンジンマウント、ならびにドライバーの

背中ほぼ後ろからパワートレインの轟音をキャビンに伝えるエキゾーストが搭載されています。

McLaren 600LT のドライビング・エクスペリエンスを特にサーキット上で高める為に採用されたカーボンファイバー製の新しいボディと大型のリア・ディフューザーは、圧倒的なダウンフォースを提供します。ドライバーはエアロダイナミクスの最適化や軽量化、パワーの増大、サーキット指向のダイナミクスを

フルに享受する事でマシンとの本質的かつピュアな一体感を得られます。この更に高められた性能と

マシンとの一体感が **McLaren 675LT** モデルやそれ以前の **F1 GTR** 「ロングテール」より引き継がれてきた **McLaren 600LT** の最も強いこだわりです。

1997年シーズンにデビューした印象的な「ロングテール」を持つ **McLaren F1 GTR** の独特の長いボディのシルエットは今ではアイコンとなっています。このモデルは生産車両と開発プロトタイプを合わせてもわずか9台しか生産されておりません。空気抵抗を抑制しダウンフォースを増大する延長されたボディに加えて、完全にアジャスタブルなサスペンションやシーケンシャルトランスミッションなど、ボディの

内部にも更なる改良が施されておりました。

広範囲に及ぶ軽量化対策を通じて最適化された **McLaren F1 GTR** 「ロングテール」は、ル・マン 24時間

耐久レースで優勝した、既にフライ級レベルの軽量化が施されていた **McLaren F1 GTR** よりもさらに100kg以上の軽量化が成され、その時代で最も有名なGTレースカーの1つとなりました。また1997年度のFIA GT選手権では11ラウンドのうち5つのラウンドで勝利を収めたほか、ル・マン24時間耐久

レースのGT1クラスでは3位以下のマシンに30周近くの差をつけて1-2フィニッシュを成し遂げて

います。

マクラーレン・オートモーティブは、2015年のジュネーブ・モーターショーで**675LT Coupé**を披露し、「ロングテール」という伝説の名を復活させました。パワーの増大とドライバーと

マシンとの一体感の

向上と共に極限までの軽量化、エアロダイナミクスの最適化が成されました。サーキット指向の

ダイナミクスが大きくアピールされ、生産台数は限定されました。「ロングテール」の名を冠された

オリジナルモデルの精神と、LTのエンブレムを付けたマシンに固有の特性に忠実である **675LT Coupé** は導入当時、マクラーレンのこれまでの量産車両のうち、最も純粹で、最も興味深いスーパーカーだという評価を受けました。生産予定の **Coupé** が瞬く間に売り切れとなった後、お客様の要望に応えるために、マクラーレンは、**McLaren 675LT Spider** を開発しました。マクラーレンのエンブレムを付けたマシンの中で、最もテーマが絞られ、最も速い、この爽快なオープントップモデルは、生産予定の **500** 台が **2** 週間も経たないうちに完売しました。

新しい **McLaren 600LT** も生産台数は厳密に限定されます。**600LT Coupé** の生産は **2018** 年 **10** 月から約 **12** か月間、既存のスポーツシリーズとスーパーシリーズ、および既に完売の **Senna**、**Senna GTR**、**BP23** の生産と同時進行で実施されます。**McLaren 600LT** 専用のカーボンファイバー製ボディーパネルも、他のスポーツシリーズのモデルには見られない際立った特性といえます。

先代の **675LT** と同様に、**600LT** は、一台一台がサリー州ウォーキングのマクラーレン・

プロダクション・センターにおいて手作業で製造されます。**McLaren 600LT** は **7** 月 **12** 日 (木) の **2018** グッドウッド・フェスティバル・オブ・スピードにおける一般公開に先駆け、マクラーレン正規販売店で本日より注文可能です (販売枠に基づきます)。

McLaren 600LT についての情報は、以下のウェブサイトをご参照ください。

<http://cars.mclaren.com/sports-series/600lt>

<https://youtu.be/KCzFQy0px7M> (McLaren 600LT 動画)

マクラーレン・オートモーティブについて：

マクラーレン・オートモーティブは、ラグジュアリーかつハイパフォーマンスなスポーツカーおよび

スーパーカーを製造しています。**2010** 年に設立され、現在はマクラーレン・グループ最大の企業です。

自動車は全て、英国サリー州ウォーキングのマクラーレン・テクノロジー・センター (MPC)

において、

手作業で組み立てられています。製品ファミリーは、スポーツシリーズ、スーパーシリーズおよび

アルティメットシリーズの 3 つのカテゴリーから成り、全世界 30 のマーケットの 80 以上のリテラー

にて販売されています。

マクラーレンはパイオニアとして絶えず限界を押し広げています。1981 年、マクラーレンは、McLaren MP4/1 を通じて、軽量かつ強固なカーボンファイバー製シャシーを初めて Formula 1 に導入しました。

1993 年には、ロードカーの McLaren F1 を設計・製作。以来、製造する車両全てにカーボンファイバー・

シャシーが採用されています。また、アルティメットシリーズのモデルとして、マクラーレンは、

ハイブリッド・ハイパーカーである McLaren P1™ を業界に先がけて投入しました。

2016 年に発表された、「Track22」ビジネス・プランの一環として、研究開発活動に 10 億ポンドを投資し、2022 年までに 15 の新モデル／派生モデルを投入、うち半分をハイブリッドにするという目標を

掲げています。2017 年には、Track22 にもとづいて、スーパーシリーズの第 2 世代である 720S、および 570S Spider、McLaren Senna といった新モデルを投入しました。

イノベーティブなスポーツカーとスーパーカーのシリーズを開発、設計および製造するために、マクラーレン・オートモーティブは、専門的な知識と技術をもつ世界トップレベルの企業と提携して

います。アクゾノーベル、ケンウッド、ピレリ、リシャール・ミルが主なパートナー企業です。

マクラーレン・グループについて：

マクラーレン・グループは、ラグジュアリーなハイパフォーマンス性と技術における世界的リーダー

であり、マクラーレン・オートモーティブ、マクラーレン・レーシングおよびマクラーレン・アプライド・テクノロジーズという 3 つの中核企業で構成されています。

マクラーレン・オートモーティブの日本オフィシャルウェブサイトおよび日本オフィシャルフェイス

ブックは下記の URL からご覧いただけます。

オフィシャルウェブサイト：<http://jp.cars.mclaren.com/>

オフィシャルフェイスブック：<https://www.facebook.com/mclarenautomotiveJP>

※写真データをご希望の方は、以下の広報事務局までご連絡ください。

本件に関するお問い合わせ先

Gracia Yap

PR Manager – Asia Pacific | McLaren Automotive Limited

Phone: +65 6338 3700

Mobile: +65 9109 3698

Email: gracia.yap@mclaren.com

または

マクラーレン・オートモーティブ・アジア 日本支社

広報事務局 (オグルヴィ PR)

担当： 中山 奈央子、長谷川 千遥

TEL 03-5793-2388/2346 / Mail mclaren.pr.tokyo@ogilvy.com